

 社団法人 愛媛県建築士会
<http://homepage3.nifty.com/ehime-shikai/>



2013 高校生の「建築甲子園」
愛媛県立松山工業高等学校 BEST 8 入賞
情報・広報委員会座談会報告
走る建築士(第52回愛媛マラソンに参加して)

1

インタビュー

2013 高校生の「建築甲子園」愛媛県立松山工業高等学校 BEST8 入賞①

2

支部報告

久谷地区の歴史を学ぶウォーキング	松山支部	近藤 岳志	②
衛門三郎と弘法大師について	松山支部	清水 浩	③
第46番札所 医王山養珠院 浄瑠璃寺 一たかさんのご利益がここにー	松山支部	永井 由起	④
第47番札所 熊野山 妙見院 八坂寺	松山支部	小原 文子	⑤
国指定重要文化財 渡部家住宅	松山支部	西浦 郁子	⑥
四国別格二十霊場第九番札所 文殊院	松山支部	三好 欣尚	⑦
松山市指定記念物 八ツ塚群集古墳	松山支部	渡邊 道彦	⑧

3

委員会報告

平成 25 年度情報・広報委員会座談会報告	委員長	井関 克徳	⑨
第 22 回全国まちづくり会議の報告「災害における建築士の役割」	委員長	花岡 直樹	⑩
全国青年委員長会議に参加して	副委員長	遠藤 禎詔	⑪
とびだせ建築士 in 南予に参加して	青年委員	青陽 孝昭	⑫
		山内 真一	⑬

4

けんちくの輪

建築士会とソフトボール	周桑支部	首藤 忠夫	⑮
建築士としての地域との関わり	八幡浜支部	高橋 芳明	⑯

5

走る建築士 (第 52 回愛媛マラソンに参加して)

四国中央支部	尾藤 淳一	⑰
新居浜支部	鴻上 八大	⑰
西城支部	国宇順一郎	⑰
周桑支部	木村 久司	⑯
松山支部	井上 竜治	⑯
松山支部	沖 浩	⑯
松山支部	高橋健太郎	⑯
松山支部	近藤 岳志	⑯
西予支部	村上征士郎	⑲
西予支部	和気 忠孝	⑲

6

お知らせ

第 7 回理事会 (概要報告)	事務局	⑳
住宅の犯罪防止に配慮した構造、設備等に関する指針	愛媛県	㉓
会費を口座振替されている会員様へ重要なお知らせ	事務局	㉔
平成 25 年秋の黄綬褒章に中岡数夫さん受賞	事務局	㉔
県政発足記念日知事表彰に酒井純孝さん受賞	事務局	㉔
会員の動向	事務局	㉔
専攻建築士の申請期間及び CPD 単位の取得期間等が変更されます。	事務局	㉔
平成 26 年 4 月 1 日より消費税増税に伴う料金改定	事務局	㉔
編集後記	事務局	㉔
	情報・広報委員	㉕



表紙の写真

題 : 大洲市富士山山頂より
大洲市街を望む
撮影者: 河野 達郎
大洲市街づくり会社
代表取締役 専務

表紙の写真について

4 月下旬から 5 月上旬の連休に
掛け標高 320m の富士山山頂が
6 万 3 千本のツツジでピンクに
染まります。
遊歩道をゆっくり散策しますと
心を洗われる気持ちになります。

【表紙の募集について】

本誌の表紙の写真は随時募集しています。
愛媛の建築、又は建築と風土、町並み、設計作品などの
写真を下記の要領で事務局にお届け下さい。
審査の上、採用されれば掲載させて頂きます。
また、サイズの調整やトリミングをさせて頂く事をご了承
ください。
期 間: 随時
様 式: デジカメデータ (JPEG)
サイズ他: 自由
応募方法: 持参かメール添付
支部名、氏名、題名、コメント
※応募作品の著作権は募集者に移る条件となります。

2013 高校生の「建築甲子園」 愛媛県立松山工業高等学校 BEST8 入賞

平成 26 年 2 月 25 日 於 . 松山工業高等学校建築科 本田 壽、宮内 理、玉乃井 公和

公益社団法人日本建築士会連合会、都道府県建築士会主催の、「地域の暮らし」をテーマとした 2013. 高校生の「建築甲子園」において、愛媛県立松山工業高等学校の応募作品が、見事 BEST8 に入賞しました。

4 回目となる今回の、「建築甲子園」に挑戦したのは、松山工業高等学校、建築デザイン部の西田周平君で、先生に勧められての応募だそうです。

その応募作品は、みかん農家のオーナー制度をテーマにした「地域の暮らし」を提案しています。

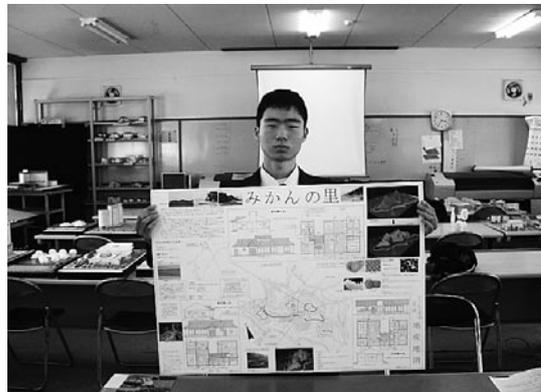
「みかんの里」と題したその作品は、みかんのオーナーと、地元でみかんの世話をする農家とが、その地域にあってふれ合う、というテーマに相応しく、想定された場所は松山市北条の、道の駅「ふわり」の向かいあたりの、海に突き出した大浦の半島の、日当たりの良い場所が選ばれています。

BEST8 入賞を聞かされた時には「まさか」と、西田君は思ったそうですが、「それも地道な積み重ねによるものだったのではないかと、その後で思い返したように答えていた通り、その手書きの図面を見れば大変だったことは十分に窺えます。聞くところによれば西田君は、今どきの若い人には珍しく、手書きにこだわりがあるのだそうです。

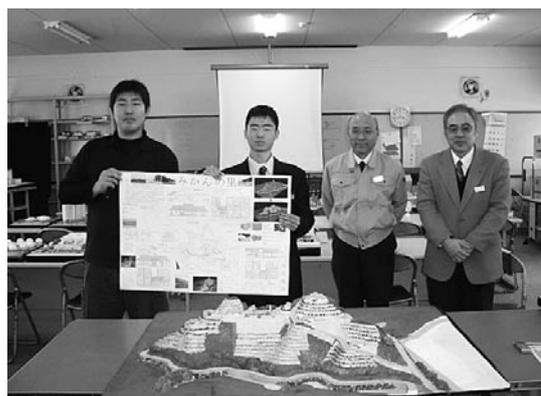
そしてさらにはその大変さは、運ばれてきた模型を見ただけで、またまた見る者には十分に伝わってきました。模型の制作には、“半島”をこしらえるだけでひと月、全体ではひと月半かかったのだそうです。

先の西田君の言葉にもあったように、これだけの地道な努力の積み重ねがあったからこそ、四国勢では初の BEST8 につながったのだらうと思います。

最後に、年齢の開きからすれば孫くらいになる後輩の快挙に一言。「おつかれさま」&「おめでとう」。(尚、西田君の希望は、この後デザイン専門学校を経て設計の道に進みたいのだそうです。それにも一言。「ガンバレ」)



西田 周平 君



サポートされた先生方と



模型

久谷地区の歴史を学ぶ ウォーキング

松山支部 近藤 岳志

ウォーキングの趣旨・概要

去る3月9日(日)に、松山支部南地区主催で、久谷地区の歴史を学ぶウォーキングを開催しました。

久谷地区は「遍路発祥の地」であることや、今年、四国八十八ヶ所霊場開創1200年を迎え、「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録の動きが出てきた為、この意義深いタイミングに合わせ、歴史を学ぶウォーキングを開催する事となりました。

■ウォーキングルート

- ・衛門三郎の里
- ↓
- ・浄瑠璃寺
- ↓
- ・八坂寺
- ↓
- ・渡部家住宅
- ↓
- ・文殊院
- ↓
- ・八ツ塚群集古墳

今回の案内役は、久谷地区で育ち、今も久谷地区が生活の拠点である清水浩さんを講師にお招きし、清水さんが子どもの頃の久谷地区の様子、これまでの地区の変化等、文献には載っていない面白いお話を織り交ぜながらご説明頂きました。



講師の清水浩さん

ウォーキングの歴史的な視点は、参加者のみなさんに、個別にレポートして頂きますが、道中、美味しそうなかんや、美しい花、珍しい植物、お昼寝中の猫などにも出会え、充実したウォーキングとなりました。あまりにも興味あるものが多すぎて、予定していた時間をかなりオーバーしてしまい、途中で移動手段を変更しましたが、結果的に有意義な時間になったことは間違いありません。



渡部家住宅で集合写真

おかげさまで、道中怪我も無く、無事に終了することが出来ました。

ウォーキングの後には懇親会が開催され、もつ鍋を囲みながら、いろんな話題に花が咲き、今後の活動に繋がる有意義な場となりました。

最後に、駐車場を貸して頂いた衛門三郎の里のみなさま、同じく、駐車場を貸して頂いた上に、一般には公開されないところまで見学・ご説明頂いた渡部家住宅のみなさま、そして、熱弁をふるって頂いた講師の清水浩さんに、この場をお借りして感謝申し上げます。

参加者(五十音順)

小原文子、近藤 岳志、清水 浩
永井 由起、西浦 郁子、三好 欣尚
渡邊 道彦、一般参加者3名

衛門三郎と弘法大師について

松山支部 清水 浩

はじめに

歴史を学ぶウォーキングの当初計画にはなかったのですが、四国遍路の始まりとして広く知られている衛門三郎の伝説によると、亡き子の菩提を弔い、悪業を悔い、大師に詫げるための巡礼という回向を重ねることにより、やがて大師に会えるという話から、大師が今も四国を回っておられ、一心にお四国めぐりをするうち、いずれどこかで大師に巡り合えるという信仰や、いわゆる「逆打ち」などの言い伝えになっています。小生宅が四国遍路開祖・文殊院、八ツ塚群集古墳（八人の子供の墓と言われている）の近くということもあって、見学先に入れてもらいました。

衛門三郎と弘法大師

それでは、久谷のお宝、育まれたお接待の文化、世界遺産に登録してはどうかとも言われている四国遍路の墓となった伝説衛門三郎と弘法大師について紹介いたします。

昔、天長の頃、伊予の国、浮穴の郡荏原の郷（現在の松山市恵原町）というところに河野衛門三郎という強欲非道な大百姓が住んでいました。

ある日、衛門三郎の家の前に一人の旅のお坊さんがやって来て、托鉢の鈴を鳴らしました。心地よい昼寝を破られた衛門三郎は、お坊さんを追い返そうとしたのですが、動きません。腹を立てた衛門三郎は、竹箒で、お坊さんの腕を叩き落としました。すると、腕は、八つに割れて南の空に飛んでいき、南の山々の中腹に八つの窪みができておりました。そこは今も地元では、八窪と言われて八降山八窪弘法大師御加持水として、涸れることなく山中に水が湧いています。



竹ぼうきを振り上げる衛門三郎
(画像：松山市教育委員会 HP より)

衛門三郎には、男の子五人と女の子三人がおりましたが、弘法大師を叩いた翌日から八日の間に八人の子供が次々と亡くなってしまいました。(松山市指定記念物・八ツ塚群集古墳)

衛門三郎は毎日毎日泣き暮らしておりましたが、旅

の僧を弘法大師と知り、前非を悔いた衛門三郎は、子どものお位牌の前で、奥さんに、「お大師様に来て罪を許して頂くまでは、家に帰ってきません。」と別れの水盃をいたしました。

白衣に身を包み、手には手っ甲、脚には脚絆、頭には魔除けの笠をかぶり、右の手に金剛杖を持って我が家を後に旅立ちました。

この姿が、お遍路さんの姿の始まりと言われております。やがて八年の歳月がたちました。四国を巡っている大師を捜して四国寺院を東から20回巡りましたが、弘法大師には会えませんでした。徳島の切幡寺から逆に巡ると、お大師様に会えると思い、逆回り（逆打）を始めました。

しかし阿波の国の焼山寺の麓へ差し掛ると足腰立たず衛門三郎は倒れてしまいました。

すると死を目前にした衛門三郎の前に弘法大師が姿を現し、「よくここまで歩いて来ましたね。今までの罪はもう無くなっています。しかし、貴殿の生命はもう尽きようとしています。何か願ひ事があるならば一つだけ叶えてあげましょう。」と言われました。

衛門三郎は、「できることでしたら、故郷伊予の国主河野様の嫡男に生れ変わらして下さい。」と頼みました。

弘法大師が、小石に「衛門三郎再来」と書き、手に握らせると、衛門三郎は亡くなりました。

その後、伊予の領主・河野伊代守左右衛門介越智息利に玉のような男の子が誕生しましたが、その子の片手が開きません。

若君三歳の春の事、桜の花見の席で南（文殊院）に向かって両手を合わせ、南無大師遍照金剛と三べんお唱えになりました。

すると、手がぱっと開き、その手の中から小さな玉の石が出て来ました。

家臣が拾ってみますと、「衛門三郎再来」と書かれていました。

その石を安養寺へ持って行き納めました。

以来、安養寺を石手寺と改めました。

[四国遍路へのいざないH・P及び大師様と衛門三郎(文殊院)から部分抜粋]

以上が小生のふるさと荏原の郷に伝わっている伝説ですが、他にも三坂峠から浄瑠璃寺、八坂寺、石手寺への遍路道沿いには、様々なお宝があります。春は絶好のウォーキング季節ですので、一度試して下さい。

合掌

第46番札所 医王山 養珠院 浄瑠璃寺 —たくさんのご利益がここに—

支部報告

2

松山支部 永井 由起

3月9日日曜日、天気は良いものの風が強く、意外と肌寒い日だった。

集合場所の「衛門三郎の里」から浄瑠璃寺へ歩く。ところどころ梅が咲いている。途中、幾つもの無人みかん販売所が。試食もあり。歩き始めたばかりで、皆さんまだまだ元気。



無人みかん販売所

10分もしないうちに第四十六番札所・浄瑠璃寺に到着。ここは松山市に入って最初の札所。

参道入口そばには正岡子規の句碑「永き日や 衛門三郎 浄るり寺」がお遍路を迎える。



正岡子規の句碑

石段を登れば正面に薬師如来を本尊とする本堂。その右手に大師堂、左手奥の鳥居の中に、ただひとつの願いを叶えてくれるという一願弁財天堂。音楽、智恵、美貌、財宝、福德に関する願いでは特に霊験あらたかと言われる弁天様の前で、うっかり複数のお願いごとをしてしまった人も…。



浄瑠璃寺境内

境内には樹齢1000年のイブキビャクシン(市天然記念物)が立ち、その大木のもとには様々ないわれのある石が置かれている。



イブキビャクシン

仏手石、仏足石、説法石…。



仏手石

内、仏足石は健脚や交通安全のお願いをするそう。わたしも素足で上がってお願いごと(写真)。「歴史を学ぶウォーキングが無事に終わられますように」と安全祈願!



仏足石の上に乗ってみる

木々の合間からこぼれる光が参道を照らし、お遍路さんを優しく迎える静かなお寺。
お参りを終えた後、田園風景の中を八坂寺へ進む。

第47番札所 熊野山 妙見院 八坂寺

松山支部 小原 文子

八坂寺は、1300年の歴史を有する古い寺です。本尊は阿弥陀如来坐像。



八坂寺に向かう道中

寺は山の中腹にあり、飛鳥時代の大宝元年、文武天皇（在位697～707）の勅願により伊予の国司、越智玉興公が堂塔を建立しました。このとき、8カ所の坂道を切り開いて創建したことから寺名とし、また、ますます栄える「いやさか（八坂）」にも由来するようです。



八坂寺の入り口



八坂寺本堂

見どころは

【閻魔堂（えんまどう）】本堂と大師堂の間。「極楽の途」「地獄の途」があり

極楽には美しい浄土が地獄には飢餓道、畜生道、修羅道などが描かれています。



「極楽の途」と「地獄の途」

【救いの手】本堂にあがる石段の下から10段目の左側。「九難を去る救い」の手とされ、足や目の病に効験ある話が伝わりました。



救いの手

本堂の地下室には全国の信者から奉納された阿弥陀尊が約8000祀られています。



約8000の阿弥陀尊

国指定重要文化財 渡部家住宅

松山支部 西浦 郁子

八坂寺から次の札所・西林寺へ至る遍路道沿いに建つ庄屋。松山藩主の君命により、他村から移り住んだ入庄屋である。最初に目に入る長屋門を見ると武家屋敷のような威圧感があるが、門をくぐり主屋が目に入ると少し穏やかな空間を感じる。



長屋門

それは大屋根・本瓦葺きの上に小さな茅葺きが可愛らしくのっているからだろう。この越屋根があることで農民を表していたらしい。



茅葺きの越屋根

しかし、銃を突き出す小窓やどんでん返し、隠し階段などの備えを見ると物騒な戦時代をうかがわせる造りである。

また、南側へ表向き、北側へ内向きと部屋割りを明確に分けていることや、土間上の何重にも重ねた大きな梁、差鴨居の大きさなどは典型的な豪農を表していると思われる。



土間上の大きな梁

渡部家へは何度か訪れているが、今回の発見は、主屋の大屋根の鬼瓦が鶴と亀であることと御成門をくぐる手前両サイドにある木が鶴と亀の形に剪定されていることである。厳しい時代と村の立地、他村から移り住んでの位置付けなど建築当時の当主の思いが建物や庭に表れていることを改めて痛感した見学であった



特別に内部まで見せて頂きました。

四国別格二十霊場第九番札所 文殊院

松山支部 三好 欣尚

文殊院について

四国遍路の元祖、河野衛門三郎の邸宅跡に所在する真言宗醍醐派の寺院。

弘法大師が衛門三郎の子供の供養と悪因縁切御修法を行い、本堂には自ら刻んだ大師像と延命子育地蔵を祀っております。



文殊院本堂

院名の由来は弘法大師が文殊菩薩様に導かれて逗留されたのを機に改められました。

昭和41年松山市久谷町植樹祭の際に、天皇皇后両陛下行幸にあたり、故、八木繁一博物館館長より当院を「四国八十八ヶ所発祥の寺院」と言上されました。※一部文殊院HP等抜粋

当院の文殊菩薩は弘法大師を導かれたありがたい知恵の文殊様であり、勉学向上、合格祈願に各県からお参りに来ます。

歴史を学ぶウォーキングの感想

衛門三郎の里に集合し、浄瑠璃時一八坂寺までのウォーキングで時間を費やし過ぎ、それ以降のルートは車の移動となり、ウォーキングとしては少し残念でした。しかし、渡辺家の説明は時間もとれ、懇切、丁寧で以前には見られなかった細部まで案内していただき、とても参考になりました。また、八ツ塚群集古墳群では、身近な所にこんなにユニークな場所があったのか、と感動しました。天候にも恵まれ、身近な歴史にふれ、優雅な景色を楽しみながらのウォーキング。次回を楽しみにしています。



ウォーキング風景



修行大師

松山市指定記念物

ハツ塚群集古墳

支部報告

2

松山支部 渡邊 道彦

今回の勉強会のラストの見学対象となりました。衛門三郎伝説になぞらえられた八人の子供たちを祀ったとされる墳丘が、畑の中に、ぽつんぽつんと並んでおりました。



畑の中にある墳丘

場所は、愛媛銀行のグラウンドの裏辺りになります。

ハツ塚古墳群と言うからには当然、八つ、お地藏さんのものがあるはずなのですが、どんなに指折り数えてもどうにも一つ足りないのです。



複数見える墳丘

参加者の誰にも見つけられないままいたずらに時間が過ぎて寒さも堪える時刻となりつつあり、このまま見つけられないと後味が悪い...と申しましょうか、見つかるまで解散できないのでは？と、不安がよぎり出した頃、皆が散々探し回っている場所から少しはずれた所から「あったよお」との天の声が...



探し続ける参加者

声の方に目を凝らしてみますと近隣の民家の庭の奥の隙間からわずかに確認出来ました。



やっと見つかりました。

こんな場所に作らなくても、言うより後から民家の方が、石碑を隠すように建ててしまっているだけなのですが、地元の方でさえ見落としてしまう程にわかり難い場所にありました。

何事も、行き詰った時には視点を変えて物事を見ると答えが見つかりやすいという教訓でした。

実は、我々が来た方向の逆の西方から散策していたら背面側から、まるっきり見えていました。

とにかく暗くなる前に解散出来てめでたし、めでたし...

■一般参加者 S からの投稿

ウォーキングの途中、民家の前に並べられてありましたお接待の『はっさく』を頂戴したのですが家に帰って頂くとビックリするくらい美味しかったです。お接待を侮るなかれ!でした。



はっさく

平成 25 年度情報・広報委員会 座談会報告

委員長 井関 克徳

平成 26 年 2 月 8 日 (土) 14 時から 1 時間半、本会事務所にて恒例の座談会を開催しました。

寒波の影響で東予方面の委員さんの欠席連絡が朝から相次ぎ心配していましたが、本田会長、大西事務局長、宮内副委員長、二宮委員、玉乃井委員、大上委員、水野委員、私井関委員長の 8 名で「会報いしづち」と「本会ホームページ」の運営について座談を行いました。



会議風景 1

予め司会をお願いしていた大上委員の開会で始まり、私委員長、本田会長、大西事務局長の挨拶に続き、参加委員全員の今年の抱負と挨拶が行われました。

フリートーク形式で始まった議論は、会員増強と本委員会の役割となり、下記の事項の意見が出されました。

- 会員名簿を本会ホームページに掲載して、会員外の方を把握して、入会推進が出来る様にする。
- 「会報いしづち」に会員外の方からの寄稿や表紙の応募をお願いして、建築士会の意識を高め入会して頂く。
- 新入会員の紹介をして、更に入会の輪を広げる。などでした。

また理事会で会員増強委員会の計画発表のあった「学生会員」の創設について「将来の会員の卵」として高校の先生や生徒から寄稿して頂き、本会の関心を高める事の重要さも必要という意見も出されました。

会長からは、下記の様な意見を頂きました。

- 理事会の決議事項を掲載する
- 他県の誌面の良い所を取り入れる (簡潔な内容に凝縮し、見やすいカラーページにする。)

またカラー化への為には広告のお願いが不可欠との事で、積極的に支部、事務局と委員が連携していかなくてはとの意見が委員から出されました。

大西事務局長からは下記の意見が出されました。

- 講習会の参加申込のシステムをホームページで構築して、申込の手間と受付の手間の省力化を行い、

より参加しやすいものにする。

- 事務局として委員会で決まったことは、全面的に協力サポートする。
などの心強い意見を頂きました。



会議風景 2

二宮委員からは、

- 「決めたことは絶対諦めないで実行する取り組み」を熱弁され、いつの間にか消えてしまった計画などの指摘が出て、改めてそうでしたね!と再認識されました。

情報委員の参加が無かったのは残念でしたが、今年も一時間半の有意義な座談会となり、より良い「会報いしづち」と「本会ホームページ」を今年も運営する決意が高まったように思います。

玉乃井委員からは、

- 企画編集に精力的に取り組まなくてはとの意見を熱弁されました。

17 時からの懇親会は昨年と同じ予め大上委員に予約して頂いた「うまい処福家」で懇親しました。参加されたのは、大西事務局長、宮内副委員長、二宮委員、大上委員、私井関委員長の 5 人で食事を囲み、座談会で言えなかった事や、個人的な話で一時間半懇談しました。私もせっかくの機会と二次会に行き飲んで帰る予定でしたが、ソチ冬期オリンピックの中継を観たく早々に帰路につきました。



懇親会のスナップ

第22回全国まちづくり会議の報告 「災害における建築士の役割」

委員会報告

3

委員長 花岡 直樹

会議の概要

去る2月7・8日に、東京都港区の住友不動産三田ツインビル西棟の会議室において、第22回まちづくり会議と平成25年度全国まちづくり委員長会議が行われました。私が連合会まちづくり委員として出席し、文化財・まちづくり委員長代理として、委員の遠藤禎誌さんに参加していただきました。

今回は「災害における建築士の役割」をテーマとし、まちづくりに必要な手法や諸制度に焦点を当て、全国建築士会の防災まちづくりに対する活動の報告をし、東京都新宿区の戸塚地区を対象地とした、災害時の支援側の建築士などに向けた復興模擬訓練を実施しました。

1日目

連合会まちづくり委員の池田誠之氏の司会で始まりました。三井所清典連合会会長の挨拶、森崎輝行連合会まちづくり委員長の趣旨説明と会議の流れの説明があった後、鼎談が始まりました。連合会発行の「建築士」に詳細な内容が載ると思いますので、今回は簡単にその要旨をご報告します。

まずは宮城県建築士会砂金隆夫会長が約10分のビデオを上映しました。この10分というのは、岩手県南三陸町の沿岸に津波が到達してから、津波によって町が壊滅するまでの時間です。1台のビデオカメラで撮ったもので、津波によって建物が倒壊し流され、あるいは車が濁流にのまれながら、町全体があっという間に倒壊する経過を生々しく撮影したものでした。何度も見た映像でしたが、震災から3年近くたった今でも恐怖と悲しみなしでは見るできないもので、黙とうの代わりとでもいうか、これから災害のことについて議論するのに十分な序曲となりました。



鼎談の様子

続いての鼎談では、三井所会長が山古志村で取り組んだ復興事例が、女川町竹浦地区住民を勇気づけ高台移転での自力再建に向かわせている事例を紹介しました。砂金会長や森崎委員長も加わり、今後の全国の建築士会による防災まちづくりの可能性を参加者とともに考え、各地域に持ち帰っていただきました。

続いて全国の防災まちづくり活動事例報告が行われました。①事前復興計画、液状化対策アドバイザー他：山中誠一郎氏（東京都）②被災前復興住宅計画プロジェクト：中野輝明氏（徳島県）③地域防災研究会の活動：中村正則氏（徳島県）④被災歴史的建造物の調査復旧支援体制調査の取り組み：山中満清氏（熊本県）⑤町並みの映像化、木造応急仮設住宅の取り組み：鈴木史郎氏（和歌山県）の5例でした。どれも内容の濃いものでしたが、特に徳島県の2件は隣県として特に心に残りました。



事例報告の様子

このあと、先ほどの事例報告者5名をパネラーとし、コーディネーターを連合会まちづくり委員会豊永信博副委員長が務め、パネルディスカッションが行われました。報告に対する質疑と回答が中心でしたが、このような活動によって行政とのかかわりを持てるきっかけとなるといいとの意見が印象に残りました。

夜は向かいの笹川記念館に場所を移して交流会が開催されました。鼎談、パネルディスカッションの主役や、その他の出席者のほとんどが参加し、議論し足りなかったことや地域の話などで交流の花が咲きました。ここでは私は司会を務めさせていただきました。

二日間、とても有意義な会でした。学んだことを、愛媛県建築士会の活動にも役立てることができるよう、遠藤さんともよく話し合っていていきたいと思いません。

最後に、雪のことを…。2日目は東京地方は30年に一度ともいう大雪に見舞われました。朝ホテルを出るときに小降りですっすらと積もっていた雪も、会議が始まるころから本格的になり、お昼の時点でほとんどの飛行機の欠航が決まっていました。私は夕方の便

で大分に飛び、別府の文化財講座に合流の予定でしたが、もちろん飛行機は欠航。新幹線にようやく乗れたものの3時間も遅れて、別府到着は夜の10時半になってしまったことを申し添えます。



パネルディスカッションの様子



参加者の様子



交流会の様子

2日目

防災まちづくりワークショップと題して、早稲田大学佐藤滋研究室による新宿区戸塚地区をモデルにした事前復興模擬訓練を3班に分かれて体験学習を致しました。事前復興模擬訓練という表現では理解しづらいのですが、ジオラマを使ったジグゲーム（図上訓練）と思って頂ければ、わかりやすいのではないかと思います。

私も自治会長兼任の自主防災会長を努めており、防災士講座を受講していたので内容的には着いて行けたと自負していますが私達防災会の日常の取り組みは、災害発生時の公助が得られる迄の自助、共助が課題ですが、今回のワークショップは更に、その後の避難所でのコミュニティのはかり方や、人のつながりを重視した仮設住宅のあり方等の討論に、東日本の復興状況を理解出来ない私には『もうそんな先まで進めるの?』という驚きばかりです。このワークショップの締めとして、各班の代表による発表が行われましたが、その発表を聞きながら、社会に出てから施工畑一筋の私には、改めて建築は人の集う場所、人の生活する所という言葉の思い起こしておりました。

予定では、9時より15時までのワークショップでしたが、折りからの大雪の為に予定を繰り上げて午前中で終了し、昼食をはさんで午後より1時間程度の全国委員長会議が行われました。

この委員長会議はワークショップを超えたプラット

ホームとして行われましたが、東京の支部では、行政と連携したボーリングデータの収集による液状化のハザードマップの作成等の発表も行われました。

東北の委員の方より、復興の状況等が報告され、住宅の高台移転の問題点や防潮堤プロジェクトの問題点も指摘されました。高台移転は住と職の関係から、自己責任で沿岸部に家を建てさせて欲しいという意見もあるし、巨大な防潮堤は地盤の圧密沈下を促し、比較的表層部の山からのミネラルを含む地下水を遮断するため、海の肥沃性が失われ、漁業に深刻な影響を与える懸念があるとの意見も出されました。とりわけ建築士として興味ある意見は、この防潮堤が完成した時に、海から陸を観た時、これはもう街とは言えないのではないかという発言でした。

自然という豊かな恵みがあって、そこに人の営みがある。そして、衣・食・住が生まれる。その人の作る文化が発達すればするほどに、衣も食も住も多様性が求められてくる。ともすれば、忘れがちな自然の持つ尊厳というものを改めて考えさせられました。

おわりに、この様な貴重な機会を与えてくださった花岡委員長様はじめ愛媛県建築士会の皆様に深く御礼申し上げます。

委員 遠藤 禎誌

全国青年委員長会議に参加して

青年委員会副委員長 青陽 孝昭

3月8、9両日、東京都港区の東京機械本社ビルで日本建築士会連合会 全国青年委員長会議に森川委員長代理として参加させて頂いた。今年度は「未来への架け橋」をテーマに、日本建設産業職員労働組合など他団体からの参加者とともに若手の人材不足への対応策を中心に議論。都道府県建築士会ごとに、職域を横断して建設産業の魅力向上に向けた取り組みを考えていく会議であった。主催を代表してのあいさつに立った関連合会青年委員長は「設計と施工、行政といった職



関委員長あいさつ

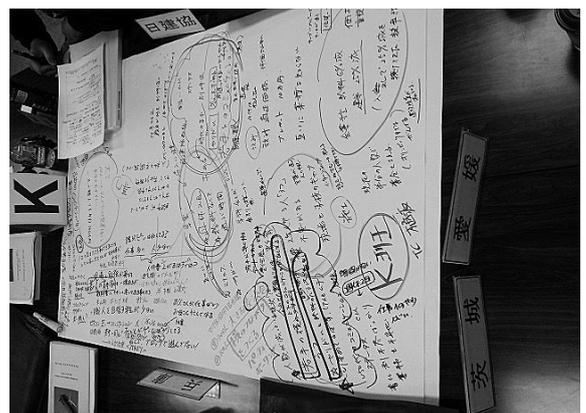
域間相互に理解して『協働』するため、委員会や団体の隔てなく課題を一緒に考えていきたい。今回の会議を通じてより明るい業界をつくるためのきっかけをつかんでほしい」と期待を込められていた。来賓として出席した三井所会長は建築界全体の傾向としてもものづくりへの理解が低下しているとした上で「手すり一つ、金具一つにも、われわれが想像もできない技術が使われているが、設計側も工事監理側もその技術が分からない。だから適切な報酬も分からず、協働した仕事もできず、結果として良い建築もできない。思いの込もった建築のためにも、最終的にもものをつくらせている人の技術を知り、その人自身についても知らなければならない」とし指摘し、議論の成果を各都道府県建築士会で実践することを強く求められた。あと、衛藤連合副会長のあいさつ、連合会青年委員会活動報告などに続いて連合会建築技術委員会建築施工部会の荒木真也氏

(鹿島)の基調講演、建築施工部会が2013年11月に各建築士会と専門工事団体を対象にしたアンケートの結果をもとに、建築業界における若手不足、高齢化が深刻化している状況を改めて強調。その上で全国の青年委員がワールドカフェ方式でワークショップにて会議を行った。テーマは『若者の人材不足』



WS風景

A～Lの島を割り当てられていて一回目WSで愛媛はCテーブル長野士会：星野さんと同席でほっとしたがとなりには、会長も同席…簡単に自己紹介を行いそれぞれの立場での意見をQ1：若者人材不足の状況、問題点、原因 Q2：それぞれの立場での展開をポストイットに書き出しながら進めこのテーブルでの「感想・気づき」を持ち、席替えを行う二回目はGテーブル大阪士会：竹原さん東京士会：渡辺さんと同席でまたまた



最終成果

ほっと、Q：現状改善のアイデア A：若い職人さんと出会った時にはなんでもいいから褒めてあげる。若者と上手くコミュニケーションをとる。などの意見でまとまる。三回目の席替えでは、顔見しりは一人も居ないKテーブルQ：ビジョンまずは、二回のテーブルで話ってきた事を共有し、今後、我々の描くビジョンについて議論、時刻は、17：30を回っている。17：40よりテーブルごとの発表！なぜか小生が…（涙）発表順はランダムまずはじめは、Fテーブル発表者・神奈川士会：奈良ちゃん！さすがの発表である。二番手にKテーブルそつなくこなし、他のテーブルのまとめを聞く、



中間発表風景

だいたいどのテーブル同じような意見であった。18：30 事務連絡後 19：00より懇親会。中四国ブロックの方々と関東甲信越ブロックの方々とちよこつと二次会を行い就寝（広島士会：渋谷さん漬れる！）二日目 9:00 受付 9：15 福島大会 PR が行われ 9：45より協議スタート Q：どのような取り組みができるか？我々のテーブルでは、学生のうちに建築の魅力・希望などを与えられるよな士会活動をしていこう～的な意見でまとまる。あと現場に女性がいたらいいよね～などと言う意見も出始め、まとめまでには、方向性は導けなかったが福島大会で会うまでの宿題だね。と言いながら全体発表の時間が…全体発表は司会者が発表者をランダムに指名していきテーブル代表者としてこの会議で学んだ事を発表していきました。



全体記念撮影

多くの意見として

「建築業界のイメージアップ」

「労働条件の改善」

「女性の活躍」

「若者や学生に建築の魅力を伝えていく」などを

各建築士会として取り組んでいく、でした。

全体記念撮影を行い12：00 解散しました。

エピローグ

会議終了後、羽田発までに山口士会：玉井さん徳島士会：蓼田さんと三人で、東京スカイツリーに登りに行こうって感じで、いきなり行ったのだが、やっぱり日曜日！下から見上げて、浜松まで戻り、東京タワーに登ってスカイツリーを眺めて帰りました。



見あげただけのスカイツリー



懇親会

とびだせ建築士 in 南予に 参加して

西予支部 山内 真一

1. 日 時：平成 26 年 3 月 2 日（日）
10:00～11:30

2. 場 所：西予市宇和町永長 147 番 1

3. 建築概要：

構造：鉄筋コンクリート造 地上 3 階建・免震構造
延べ面積：11,765.16 m²

毎年恒例行事となっている「とびだせ建築士」
今年は、西予市宇和町に西予市新病院を建設中の為、
構造見学会とし参加してきました。



青年委員会では“とびだせ建築士”という活動を
東・中・南予で行っており南予では今回で 6 回目となり
ます。

この活動は愛媛県内 4 校の工業高校建築科の生徒さん
を対象に我々建築士と生徒さん達と直に交流する機
会を作り、名建築や建築現場に触れていただき、建築
という仕事に希望や興味を持ってもらえるようにとい
う願いで実施させていただいております。



西予市新病院建設推進室、村上氏、また、施工業者
の方による非常にわかりやすい説明での現場見学。

地下免震層に施工された配管設備、免震構造である
為、部分的にフレキシブルな配管がされていたり、ジョ
イント部やコーナー部のエルボなどがメンテナンスを
考慮し透明のエルボが使用されていたりと構造見学会
に参加しないとわからない事が沢山あり非常に有意義
な時間でした。



鉄板で保護された免震装置（鉄板は工事完了後に撤
去）二層、三層と工事が進むうちに躯体の重みで、巻
いてある薄鉄板が変形している所もあり、リアルにゴ
ムで支えてある事を実感しました。

最後に、吉田高校の先生方をはじめ参加して頂いた
生徒さん、そして工事関係者の皆さまに心よりお礼申
上げます。

どうもありがとうございました。

けんちくの輪

けんちくの輪

建築士会とソフトボール

周桑支部 首藤 忠夫

仕事を辞めてソフトボールのクラブに入れてもらった。練習は毎週日曜日の午前中だ。数か月間は、足の筋が引き攣る日々が続いた。

休むと楽なのだが、同じ事を繰り返すと思い、足を引きずりながらの練習を行なった結果、知らぬ間に治った。始めてから四年が経過した。公式試合と練習試合を含めての通算打率は、二割三分とマアこんなもんだらうと自分でパソコンのデータを見て納得している。

話は代わり、昭和53年、市役所内の都市計画課に建築係が誕生した。これを境に、周桑支部は大きく変わった。支部長と事務局が民間から官公庁に移った(仰せつかった)事もあり、賛助会員等の数がドット増えた。入会しない会社は、入札回数が減るなどとの噂も出て自主的に入会、事業にも参加者が増えた。三十数社が増えたように記憶している。そんなことで、予算に伴って事業内容も充実した。

スポーツ大会に参加しても、『貴方の会社から三名出して。おたくは一名と』、苦勞せず集められた事で年々

強くなっていったと思う。その頃はソフトボールの大会が主流でピッチャーから放られるボールもスピードがあり兎に角早かった、それでも強かった、よく打った。この人達は、本当に建築に携わる人達か、などと疑った年もある。ある時は、どうしても九人の参加者しか集まらなく試合に臨んだ。『怪我をしないように』と、お互いが顔で合図をし、あれやこれやで優勝してしまった。(それを機に、ソフトボールから新種目となった……らしい。)

支部は、旧東予市、丹原町及び小松町からなり、それぞれに主役がおられ、これは現在も引継いでいるが、会員数等は年々減少傾向にある。あの頃よ、もう一度…。今回、西条支部長さんからボールは投げられた。これは何だろう。『チームを一つにしないか』とのブロックサインかな。

私も三塁のベースを回ったところで、引っ繰り返らないよう、外野からのヤジ(早く代れ)を気にしつつ、ホームインを夢見る今日この頃である。

建築士としての地域との関わり

八幡浜支部 高橋 芳明

八幡浜支部の宇都宮勇夫さんからバトンを受けました八幡浜支部の高橋です。けんちくの輪ではありますが、折角の機会ですので、八幡浜市のPRも…

みなさん、「みなっと」って知っていますか？

「みなっと」は昨年4月に八幡浜市に誕生した道の



駅・みなとオアシスで、誕生してから1年が経過した今現在(3月25日現在)で約120万人の方々が登場し、八幡浜市の名産品である「みかん」や「魚」等を購入して頂

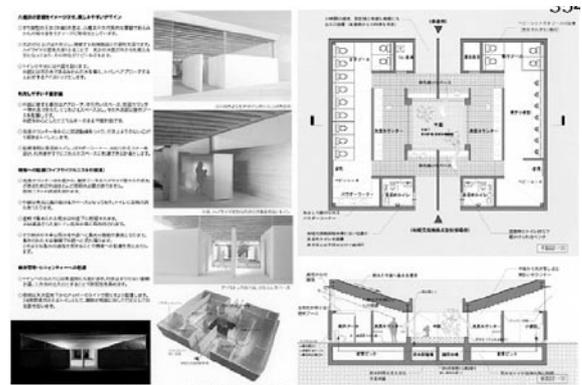
ける施設です。

「みなっと」には、新鮮な食材・地域の特産品・オリジナル商品等おいしさがあふれる産直施設【アゴラマルシェ】、隣接している魚市場に水揚げされた新鮮な海の幸を販売する【どーや市場】、市の観光や各種イベントの情報発信基地であり市民の活動交流拠点となっている【みなと交流館】、市民の憩いの場となっている【芝生公園】があります。

また「みなっと」には、全国公募によりデザインを決定した公衆トイレがあります。このトイレのデザイン設計競技には、全国各地の建築士や学生、建築士グループから総数285作品の応募あり、デザイン設計競技の事務局を担当していた私は「どういったコンセ



公衆トイレ外観パース



公衆トイレ応募図面

プトで、どういった作品が応募されるのだろうか」と心配していましたが、しっかりしたコンセプト、実用的でかつ八幡浜市の新しい拠点のモニュメントとなる作品、どの作品も個性的ですばらしい作品でした。

(愛媛県建築士会会員の皆様にも多数応募頂きました。ありがとうございました。)

最優秀作品に選ばれたのは、東京都の斉薔さんの作品で、作品名の【段々 MOKUKASA】は、八幡浜市の代表的な景観であるみかんの段々畑をモチーフとした段々の木傘のことであり、木傘がトイレを覆う大きな屋根として建物の特徴づけるデザインとなっている作品でした。

最優秀作品となったデザインを基本設計として実施設計を進め、トイレ棟を完成させ、オープン当初から皆さんに利用して頂いています。昼は段々木傘が「みなと」のモニュメントとなり、夜は光り輝く行燈が

八幡浜の灯りとなり、公衆トイレ以外の用途としても観光客の皆さんや市民の皆さんに、24 時間、喜ばれています。

小さな公衆トイレのデザイン設計競技ではありますが、この設計競技を通じて、建築のすばらしさや奥の深さを再認識することができ、自分の仕事を見つめ返すことができる良い機会となりました。

また、設計競技に参加して頂いた全国の皆さんに【八幡浜】という地名を知って頂き、八幡浜の良さを少しでも伝えることが出来たのではないかと思います。

まだ「みなと」に来場されていない皆さん!

一度「みなと」にお越し頂き、最優秀作品となったトイレ棟をご利用になって、おいしい魚やみかんをぜひご賞味あれ!!



公衆トイレ外観 (昼景)



公衆トイレ外観 (夜景)

走る建築士

(第52回愛媛マラソンに参加して)

四国中央支部 尾藤 淳一 タイム：4時間14分 フルマラソン：14回目

マラソンに取り組んだのが、8年前からだろうか。初マラソンは、2008年の第1回とくしまマラソンになる。

もともと長距離走が苦手だったのだが、健康管理のために特に目標を持たずに始めた。始めはゆっくりのジョギング程度。唯一の決めていたことは、ずっと続けられる量とペースでやろうだけである。最近では、普段のトレーニングでも少し欲を出すことはあるけれども、余り無理はしていない。それでも走れない日が続くとイライラしてきてしまう。

マラソンには、見ず知らずの人から応援をもらえる

といった楽しみもある。それなのに、いくら派手なウェアを着ていても仮装している人にはかなわない。近くにいる仮装の人ばかりに応援は集中する。それだから20km付近で建築士会の幟と会長はじめ会員の方、事務局さんを見つけたときは嬉しかったし、応援もありがたかった。

今度レースに出る機会があれば、一目で「走る建築士」と分かるような格好をして走るのも建築士会のPRにもなって貢献できるのではと思いながら、今は疲れを癒している。応援を頂いた皆様には本当に感謝・感謝

新居浜支部 鴻上 八大 タイム：5時間52分 フルマラソン：1回目

全く運動をしない私でしたが、あるきっかけで1年前から練習を始め、自信もなかったのですが初マラソ

ン初完走できました。応援していただいた皆様、ありがとうございました。

西条支部 国宇 順一郎 タイム：5時間40分 フルマラソン：2回目

フルマラソンはすごく疲れます。でも完走できた時の達成感は疲れるけど気持ちいいものです。沿道の応援されてる方もお疲れ様でした。声援の力もあって完走できたと思います。ありがとうございました。

独立をきっかけに、辛いことを乗り越えようと思い参加しました。なかなかフルマラソン自体走ることは、

考えたことはなく、参加して完走できたことが、これからの仕事の励みになります。

この調子で、仕事も走って続けていきたいと思っています。

少しずつでもタイムを縮めていきたいですね。



マラソンランナー達



尾藤さん

周桑支部 木村 久司 タイム：5 時間 57 分 フルマラソン：3 回目

6 時間の応援、本当に有難うございました。
(愛媛県建築士事務所協会の応援は事前に知っていたのですが…。) 20 km 過ぎの応援には驚きました。途中棄権が出来なくなり、41 km 辺りでの愛媛県建築士事務所

協会の応援にも笑顔をふりまき、辛うじて完走できました。

本当に有難うございました!! 感謝!! 感謝です。

松山支部 井上 竜治 タイム：4 時間 35 分 フルマラソン：2 回目

2 回目の愛媛マラソン、疲れたけど楽しく走ることができました!

去年より 20 分縮めることができたのは、沿道で皆が応援してくれたことが、すごくパワーになったことは間違いありません。ありがとうございました!

前日の雪が嘘のような快晴で最高のマラソン日和で気持ちよく、途中のエイドステーションでのおもてなしにも大満足でした。

また、来年も走りたいと思います。

松山支部 沖 浩 タイム：4 時間 52 分 フルマラソン：4 回目

ダイエットのためにとジョギングを始めて 1 年が過ぎたころ、何か目標でもないと続かないなと思い、愛媛マラソンに挑戦することにしました。走ってみると、沿道の応援は途切れない、給食はおいしいなど素晴らしい大会でした。おかげで 4 年連続無事完走することができました。

タイムはたいしたことないですが、自己ベストも更新出来ました。

デスクワークの多い設計の仕事を元気で長く続けられるように、頑張っ走りしたいと思います。練習も含めマラソンは、自分との戦い、次も挑戦します。

松山支部 高橋 健太郎 タイム：4 時間 27 分 フルマラソン：1 回目

今年入会しました高橋健太郎です。昭和 49 年 6 月生まれ、職を転々とし住宅センターで働いています。よろしくお願いします。

初マラソンでしたし練習でも 25 km 以上走ったことがなかったので完走できるか不安でしたが、南海放送でインタビューを受けるほど大きな横断幕を作って応

援して下さった職場の方々、沿道の方々の声援、社長から戴いた超高級水のおかげで完走することができました。折り返しまでは楽しく走ることができましたが、25 km 以降は足・肩・頭に激痛が走り、苦しさはありませんでしたのでゴールした時は達成感よりも開放感が勝っていました。



愛媛県建築住宅センター応援団



井上さん

松山支部 近藤 岳志 タイム：4 時間 42 分 フルマラソン：3 回目

ラッキーな事に、3年連続出場のチケットを手にすることが出来ました！ほとんど練習出来ず出場した去年の反省から、定期的な練習を少しずつ積み重ね、今回は不安無く出場することが出来ました！スタートから30 km付近までマイペースを保って走りましたが、ここからの1 km、1 kmが長い…。まさに30 kmからが本当のマラソンと言われるだけあって、ここからペースを

維持することは本当に難しかったです。途中、ゴールできるか不安な気持ちもありましたが、沿道の方からの声援、ボランティアの方のご協力、そして、土会メンバーの方々の応援が大きな力となり、無事に完走を果たす事が出来ました！応援して頂いたみなさま、本当にありがとうございました！そして、来年は応援側から出場選手側になってみませんか？（笑）。

西予支部 村上 征士郎 タイム：3 時間 24 分 フルマラソン：5 回目

5年前のフルマラソン初参加から少しずつ自己ベスト更新をしてきたものの、今回は練習不足がそのままタイムに現れた結果でした。

前半は昨年とほぼ同じペースで入りましたが、30 km手前から次第に失速…。歩くことだけはしないと決めていたことと、沿道からの声援に後押しされ、ラスト3 kmはなんとかペースを戻してゴールしたものの…タイムは昨年より4分遅れ。週末にしか走り込んでなく、

月間走距離100 kmほどの練習ではやはり結果は出ないことが良く分かりました。来年の愛媛マラソンは3時間10分以内、再来年はサブスリー（3時間以内）を達成すべく、これからは『月間走距離200 kmと、月に一度の25 km走』を目標に練習します。

最後に、応援して下さい皆さんありがとうございました！

西予支部 和気 忠孝 タイム：4 時間 29 分 フルマラソン：9 回目

愛媛マラソンを走ってみたいと思ってから、2010年に完走できるまでに14年かかりました。完走した時は感動の涙が。今は応援して下さい皆さんと一緒に、お祭りのような感覚があります。

走る建築士のメリットですが、仕事中、“むしゃくしゃ”しているときに、走ってストレス解消。夜走ると、疲れて、どんな悩みがあろうと、ぐっすり眠れる。

今日のような、つらい状況にある建築士にとって大変役に立ちます。今後の目標は、70まで（あと数年！）はサブ4に挑戦。

今年中に100 kmマラソン完走（抽選に当たれば）何のために、と聞かないでください。決めたのですから。



近藤さん



建築士会応援団

あなたの原稿や表紙写真をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿や表紙写真を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成26年 7月号 (99号)	5月22日(木)	平成27年 1月号 (102号)	11月20日(木)
9月号 (100号)	7月24日(木)	3月号 (103号)	1月22日(木)
11月号 (101号)	9月25日(木)	5月号 (104号)	3月26日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり5枚程度まで題名を付けて添付ください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付ください。

情報・広報委員会

編集後記

委員長として最後の「いしづち98号」となりました。皆様いろいろご協力ありがとうございました。 井 関

井関委員長、長い間おつかれさまでした。 玉乃井

若葉の新緑がさわやかになりました。気持ちを新たに頑張ります。会員の皆さまのご協力をお願いします。大 上

新年度が始まり、また新たな気持ちで委員活動に取り組みたいと思います。 越 智

建築士として、社会に貢献するためには、私達自身の意識・能力を高めなければなりません。

「いしづち」はそのための土俵です、活用してください、あなたに期待しています！

二宮

〈いしづち〉2014 / 5

平成26年5月発行

発行人 会長 本田壽

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会

委員長 井関 克徳 副委員長 宮内 理

編集委員 二宮 初子 佐伯 明 越智 麻衣 玉乃井公和 城戸 一也 大上 恵子 水野日出夫

